



大分の青少年



「大分県少年の船」運航事業



11月県下一斉あいさつ運動



少年の主張大分県大会



大分県少年のつどい

INDEX

- ② 「大人が変われば子どもも変わる」県民運動／大分県青少年フェスタ
- ③ 家庭の日ふれあい川柳
- ④ 県民会議加盟団体の活動
 - ・ 別府少年少女発明クラブ・大分県コミュニティビジネス創造機構
 - ・ 大分県青少年育成アドバイザー協議会
- ⑤ 第35回「大分県少年の船」運航事業
- ⑥ おおいた青少年総合相談所
- ⑦ 第36回「少年の主張大分県大会」
- ⑧ 市町村民会議の取り組み(宇佐市、国東市、姫島村)
- ⑨ 市町村民会議の取り組み(津久見市、由布市、九重町)
- ⑩ 大分県青少年健全育成大会／青少年育成県民会議会長表彰
- ⑪ 平成26年度大分県少年のつどい
 - 県民会議加盟団体の活動
 - ・ 大分県青年国際交流機構
- ⑫ お知らせ 県民会議加入のお願い／インターネット出前講座について



「大人が変われば 子どもも変わる」県民運動

子どもは社会を映す鏡です。子どもが健やかに育つため、また青少年問題の解決を進めるためには、まず大人が子どもの手本となって模範を示すことが大切です。

県や大分県青少年育成県民会議では、大人が積極的に子どもに模範を示す「大人が変われば子どもも変わる」県民運動に取り組み、青少年の健全な育成と、青少年を育てる地域づくりを図っています。具体的には、「県民総ぐるみあいさつ運動」や「公共マナーアップ運動」に力を入れ、青少年健全育成条例で全ての県民による青少年育成活動の日として定めている「青少年の日」(毎月第3金曜日)を中心に街頭啓発活動等を行っています。県民の皆さま方もこの趣旨にご理解いただき、あいさつなど身近にできることからぜひ取り組んでください。

また、大分県青少年育成県民会議が呼びかけて行う、毎年11月の「青少年健全育成のための啓発強調月間」では、あいさつ運動や公共マナー遵守の呼びかけ、清掃活動など各会員団体や学校による様々な取り組みが県内一円でされています。

27年度も11月に県内一斉あいさつ運動などを実施予定ですのでご協力をお願いします。



生活文化展で

大分県青少年フェスタを開催

大分市の秋の恒例行事「大分生活文化展」で、県民会議が活動紹介を行う「大分県青少年フェスタ」を開催しました。

会場となった大分城址公園には、日本ボーイスカウト大分県連盟、「小さな親切」運動大分県本部、大分県コミュニティビジネス創造機構、パワーウェーブ日出の4団体が活動紹介のブースを出展しました。「小さな親切」運動大分県本部は、大分の大地震の紹介をしたり防災の教材にもなった「稲村の火」の紙芝居を上演したりして、訪れた親子連れの方たちは熱心に聞き入っていました。日本ボーイスカウト大分県連盟、大分県コミュニティビジネス創造機構、パワーウェーブ日出はパネル展示などで団体の活動紹介を行いました。

第3回となった今年度は、台風の接近により10月11日(土)のみの開催となり、当初予定していたガールスカウト大分県連盟、大分県青少年育成アドバイザー協議会、日本海洋少年団大分県連盟の出展は残念ながら中止となってしまいました。

27年度も県民会議会員団体の皆さんの出展をお待ちしています。



家庭の日ふれあい川柳

毎月第3日曜日は、青少年の健全な育成に関する条例で「家庭の日」と定められています。「家庭の日」は、県民が青少年の健全な育成に関し、家庭の果たす役割についての理解を深める日です。

大分県と大分県青少年育成県民会議では、この「家庭の日」の周知と家族のふれあいを深めるため、県内の小学5、6年生と中学1年生を対象に「家庭の日ふれあい川柳」を募集しました。

この川柳は、「子の句」とそれに返事をする「親の句（返句）」を一組とし、子どもと親などの身近な大人が家庭でのふれあいを通じてお互い気をつけてもらいたいこと、気付いて欲しいことなどを素直に表現し、お互いの気持ちの理解や家族の絆を深めることを目的としています。

平成26年度は各部門合わせて617点の応募がありました。



平成26年度 家庭の日ふれあい川柳 優秀作品

部門	賞状	子の句	返句	作者	
小学5年生部門	最優秀賞	あさねむい	おこすかあさん	オニのよう	佐伯市立木立小学校 坂本 真彩・知子
	優秀賞	熱がある	ひたいを母が	手で計る	大分市立長浜小学校 梅山 由崇・真由美
	優秀賞	ふりむけば	母が見守る	朝の道	大分市立城南小学校 工藤 魁・佳代
小学6年生部門	最優秀賞	手合わせし	母と変わらぬ	自分の手	大分市立津留小学校 久保 伽藍・君代
	優秀賞	しかるより	ほめてくれると	やる気出る	大分市立戸次小学校 池田 玲稀・寛子
	優秀賞	試合中	父の声援	目立ちすぎ	大分市立滝尾小学校 那波 孝太郎・寛之
中学1年生部門	最優秀賞	辛い時	親の言葉を	思い出す	九重町立このえ緑陽中 穴井 晴太・忍
	優秀賞	冷蔵庫	父のビールで	いっぱいだ	大分市立滝尾中学校 大熊 公陽・公正
	優秀賞	反抗期	素直に言えない	ありがとう	大分市立碩田中学校 朝久野 愛美・美和

■問い合わせ先／大分県生活環境部私学振興・青少年課内
「家庭の日ふれあい川柳」事務局 ☎事務局097-506-3076

県民会議加盟団体の活動

別府少年少女発明クラブ

未来を担う子ども達に、科学の楽しさを知り、興味を持ってもらうと共に子ども達の発想力、チャレンジ力、創造力の育成を目的として活動している団体です。クラブ員は別府市内の小学4年生～6年生を対象に毎年30名を募集しています。指導員は皆科学に興味のあるボランティアで、月1～2回工作教室、体験教室、実験教室を行っています。また、毎年「別府少年少女夏休み工作くふう作品展」を開催し(今年で26回目を迎えます。)ものづくりの素晴らしさ、大切さを伝えています。活動場所は、別府市立鶴見小学校内クラブ教室です。



NPO大分県コミュニティビジネス創造機構

昨年(平成26年)より大分県コミュニティビジネス創造機構として本格的な活動を開始することとなりました。団体の活動としては、「地域振興」「学習支援」活動を主たる事業として取り組んできました。

地域振興としては、大分県産品を使った商品開発へ取り組みました。学習支援としては、小学生を対象とした学習支援教室の運営及び「語彙読解力検定」の普及へ取り組みました。団体の活動の特徴としては、行政だけでなく、企業や他のNPOとも広く連携を図ることによりその活動を行っています。一例としては、大分県中小企業家同友会主催のビジネス交流会に参加いたしました。

平成27年は地方創生に向けて行政、民間企業、NPO一丸となり取り組む年となります。大分県コミュニティビジネス創造機構もトライ&エラーを繰り返しつつ大分県の発展の一助となればという想いをもって今後も活動をしていきます。



大分県青少年育成アドバイザー協議会

大分県青少年育成アドバイザー協議会は、(社)青少年育成国民会議により認定された青少年育成活動の分野において専門的な知識及び経験を有する指導者です。

大分県では知事が「豊の国青少年育成ディレクター」として認定し活動しています。近年青少年の自然への気づきが求められる中、ネイチャーゲームやキャンプなどの自然体験活動のほかスポーツチャンバラやバルーンアート、工作など県下では小学校や、公民館、放課後児童クラブなどからの要請で会員が出向き、子ども達と一緒に楽しみながら活動しています。

平成26年度からはより大分県の現状に即した活動家を養成するために独自のプログラムで豊の国青少年育成ディレクターを養成しています。子どもの気持ちに寄り添うために、コーチングやカウンセリング、県下の状況を知るために大学や行政機関からの講座、子ども達と一緒に楽しめるようにレクリエーションの研修などカリキュラムを通し激しく変わる青少年の現状に対応でき現場で困らない人材を養成しています。



第35回「大分県少年の船」運航事業

大分県の将来を担う青少年が規律・友情・連帯の精神のもとで、船内研修や沖縄県の少年との交流、現地研修や団体生活を通じて、平和や自然環境の重要性を学ぶとともに、広い視野と社会性を養い、たくましく心豊かな青少年の育成を図ることを目的に昭和55年から運航しており、今回で35回という節目の運航となりました。

日程

事前研修 6月29日(日) 大分銀行ドーム
 本研修 7月25日(金)～29日(火) 沖縄県
 事後研修 台風18号接近のため中止

参加者

小学生(団員) 484名
 中学生(副班長) 45名
 高校生(班長) 28名
 成人(スタッフ) 54名 計611名



▲大分・沖縄出会いの交流会



大分の塔での慰霊祭▶

活動内容

- 大分・沖縄出会いの交流会での沖縄県の少年との交流や、大分の塔での慰霊祭、ひめゆり平和祈念資料館見学等による平和に関する学習、大分ジオパーク構想などをテーマにした自然環境に関する学習などを行いました。
- 参加した団員たちは、「友だちがたくさんできた」「決まりを守ることの大切さがわかった」「平和の大切さが理解できた」など、一回り大きく成長しました。

「大分県少年の船」運航事業35周年記念行事を実施しました!

昭和55年度に運航を開始した「大分県少年の船」も、本年度で35回という節目の運航を昨夏無事に終えることができました。多くの方々からいただいたご支援とご協力に感謝するとともに、35周年記念行事を以下のとおり実施しました。

1 沖縄県の少年団体等への感謝状・記念品の贈呈

本研修2日目の「入港式典」において、大分と沖縄の少年の交流にご協力いただいた沖縄県の少年団体等に対して感謝状と記念品の贈呈を行いました。

(対象団体)公益社団法人沖縄県青少年県民会議
 一般社団法人沖縄県子ども会育成連絡協議会
 一般財団法人日本ボーイスカウト沖縄県連盟
 一般社団法人ガールスカウト沖縄県連盟

2 県内企業等への感謝状の贈呈

平成26年10月31日に開催した「大分県青少年健全育成大会」において、少年の船の運航にご協力いただいた県内の企業等に感謝状の贈呈を行いました。

(対象企業等)鶴崎海陸運輸株式会社(少年の船出港、帰港時おける業務援助)
 鶴海運輸株式会社(少年の船期間中のスタッフの駐車場提供)
 大分臨海興業株式会社(少年の船出港時の放水艇による放水)
 大分県警察音楽隊(少年の船出港時の演奏)

3 大分県少年の船運航記録集の作成

昭和55年度の第1回から35回までの活動プログラム、乗船役員・スタッフ名簿、活動風景の写真を一冊にまとめました。

おおいた青少年総合相談所

<http://sougousoudanjo.sakura.ne.jp/>

平成26年6月2日に開所しました!

この度、ニートやひきこもり、就労等社会的自立に困難な悩みをかかえる青少年及びその家族を支援するため、3機関を一ヶ所に集約した「おおいた青少年総合相談所」を大分ソフィアプラザビル4階に開設いたしました。



おおいた青少年総合相談所 構成3機関について

<http://sougousoudanjo.sakura.ne.jp/>

- 1 **青少年自立支援センター** ☎097-534-4650
<http://www.oitajiritsu.jp/>



ニートやひきこもり等青少年の自立の遅れに伴う諸問題に対応するため、専門相談員を配置した総合的な支援窓口を運営し、関係機関や支援団体等と連携して、問題を抱える青少年及びその家族に対する支援を行っています。電話相談・来所相談等。

- 2 **おおいた地域若者サポートステーション** ☎097-533-2266
<http://www.oita-ss.com/>



働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者に対し、専門的な相談、ステップアップ訓練、就労体験などにより、就労に向けた支援を行っています。

- 3 **児童アフターケアセンターおおいた** ☎097-574-8899
<http://www3.hp-ez.com/hp/jidouafuter-ooita/page1>



児童養護施設等から社会に巣立った子どもたちを支援しています。生活や就業に関する相談に応じています。



総合相談窓口として県民が安心して相談できる体制を整備してまいりますので、今後とも引き続き、皆様の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

ワンストップ化した「おおいた青少年総合相談所」を大いにご活用ください。

開所式の様子



第36回

—今、中学生が訴えたいこと—

少年の主張

大分県大会

8月8日(金)、臼杵市民会館で開催され、1,709名の応募者から選ばれた10名の中学生が、日常の生活の中で感じていることや考えていることについて意見を発表しました。

今回も、家族や友達とのかかわりを通して気づいたことや、世の中の矛盾や社会の葛藤に気づき、自分たちが今後どうしていくか考えたこと、命の大切さや多くの人々の優しさに気づいたこと等、多種多様なテーマで発表が行われました。

大会発表者作品

(*学年は大会当時)

最優秀賞

「何かを探して」

兒玉 珠希 (臼杵市立北中学校3年)

大分県教育長賞・優良賞

「少しの勇氣」

野尻 萌果 (臼杵市立野津中学校2年)

共感賞・優良賞

「後悔しないように」

安部 和奏 (津久見市立第一中学校2年)

優秀賞

「兄を超えたい」

秋吉 勝己 (玖珠町立北山田中学校3年)

「聞いてくれてありがとう」

徳光 涼子 (宇佐市立北部中学校3年)

優良賞

「つながる」

甲斐 貴衣 (臼杵市立野津中学校3年)

「イバイバ」

佐藤菜々美 (豊後大野市立三重中学校3年)

「思いやりあふれる自分に」

寶珠山花歩 (玖珠町立森中学校2年)

「家族に感謝を」

森 花音 (竹田市立緑ヶ丘中学校1年)

「チョコレートの幸せ」

湯地 智香 (竹田市立久住中学校2年)

作品介绍 ▶ 第36回「少年の主張大分県大会」最優秀賞



「何かを探して」

臼杵市立北中学校 3年
兒玉 珠希

91歳になる曾祖父、「ひいじい」は、明るく優しい人で、いつも私の話をニコニコと聴いてくれます。その日も私が枕元で、学校の出来事を報告していると、突然、ひいじいの顔つきが変わり、「憲法改正したらいいん。改正したら戦争に向かってしまう。」と、私に向かって言いました。憲法改正のニュースがテレビから聞こえてきた時の、激しく怒っているのに、とてつもなく悲しそうなひいじいの目の色を、私は忘れられません。

ひいじいは、20歳の時に学徒動員で鹿児島県の離島に召集されました。家族と離れた孤独な生活と、毎日襲ってくるB29に怯えながらの特攻用飛行機の組み立て作業。自分のすぐ隣に爆弾が落ち、ついさっきまで並んで働いていた仲間が目の前で亡くなったことも何度もあったそうです。そんな生活が5年間続き、学徒動員だったひいじいにも、ついに赤紙が来ました。そして、いつ特攻として出撃させられてもおかしくない状況になった頃に終戦を迎え、生きて大分県に帰ってくるのが出来たのです。しかし、大分駅から一歩外に出てみると、あんなに帰りたかった故郷は、空襲のせいで一面の焼け野原。建物一つ残っていない景色を見た時のひいじいの気持ちを想像すると、聴いている私まで絶望感に襲われるのです。懐かしい故郷を失った喪失感に、新しい生活への希望も奪われたことでしょう。

ひいじいは、この戦争体験を伝えることが、生き残った者の使命かのように何度も、何度も繰り返し語ってくれました。孫である私の母にではなく、「戦争」から遠い時代に生まれた曾孫の私に、伝え

ておきたいという気持ちが強いのです。特に最近「自分はもうすぐ死ぬから」と口に出し、「戦争はもう二度としたりいけん。日本中の美しい風景を焼く野原にしたりいけん。戦争になったら、珠ちゃんも、友だちもみんな犠牲になってしまうんで。」と体を乗り出し、力を振り絞って私に訴えるのです。

こうして育った私は、戦争の恐ろしさや非情さを知り、戦争を恐れ、平和を願う気持ちが強くなりました。戦争は、人が人をたくさん殺し、他人の命も、自分の命も粗末にします。戦争体験を語るひいじいも、特攻機を製作していたことに関しては多くを語りません。自分の命を犠牲にして、相手を襲撃する作戦の一端を担っていたことが、やりきれないからだと思います。戦争は、命も、大切な人も、生活も、人としての尊厳も、あらゆるものを容赦なく奪う究極の人権侵害です。

家族や友達、多くの娯楽に囲まれ、「餓え」も「理不尽な死の恐怖」も実感のない、平和で豊かな生活をしている私です。しかし、ひいじいから平和の大切さを聞いて育ったことこそが、どんな物質的な豊かさよりも貴重で、恵まれた環境だったと思います。そんな私たち若い世代が、本当の平和な世の中を築いていくことが、ひいじいの願いであり、私に託されるひいじいからの課題なのです。

戦後69年が経ち、戦争を体験した人たちは少なくなりました。だから、戦争を直接は知らない中学生の私も何かをしなければ。ひいじいに連なる多くの犠牲者たちの平和への願いを、確かに引き継がなければ。誰かに伝えれば、伝わり合えば、何かがちょっとでも変わるかも。そう思った私は、8月6日の平和授業で、全校生徒を前にひいじいの体験を紹介する機会をいただきました。「国」や「地域」ではなく、一人ひとりの命が大切にされ、幸せに暮らせる「地球」というスケールで、平和な世の中を築いていくために、まずは身近なことから行動していきます。私に出来る何かを探して。

市町村民会議の取り組み

1 宇佐市 (宇佐市青少年健全育成市民会議)

宇佐市では、各中学校区に地区協議会を設置しそれぞれの協議会において、交通安全指導、あいさつ運動などの青少年の健全育成に向けた取り組みを行っています。

また、年に1度行われる総会では、市民会議の前年度活動報告および今年度活動方針を提案し、情報共有を行うことで、警察、自治会、民生児童委員協議会など各関係団体との連携を図っています。

さらに、テレビ番組でも活躍されている心理カウンセラーのつだつよし氏に「子ども達の自考力、自自力、自高力を育てるステキな応援方法」と題して、子ども達のやる気の伸ばし方やコミュニケーション方法などに関する講演をしていただき、子ども達との良い関係性について学ぶなど、研修も積極的に行っています。



2 国東市 (国東市青少年健全育成市民会議)

国東市青少年健全育成市民会議では様々な取り組みを行っています。その一例として、夏に少年の船くにさき交流会があります。これは過去に乗船した班長や団員、シニアリーダー達を招き、その年に乗船する班長や団員たちに少年の船に参加する心得を教えてもらいます。参加者達からは、事前研修を受けたことで、少年の船に対する気持ちが高まり、参加してよかったとの声を聴きました。また、冬はくにさき探検隊と題し、九重森林公園スキー場にてスキー教室や九重青少年の家での宿泊体験、ウォークラリーなどを行っています。非行問題の根底には体験活動が不足していることが一因という指摘もあります。今後もこのような体験活動を行い、自然とのふれあいや、他人との共同生活などで青少年が健全に育つことを支援していきます。



3 姫島村 (姫島村青少年健全育成村民会議)

姫島村では、地域団体・PTAと連携して、年5回の補導部会や夏季休業中の夜間巡回補導、世代間交流事業(三世代ふれあい交流会)など、地域住民の協力のもとに活動を行っています。

活動内容としては、「きらきら大作戦」と題して、小学3~6年生を対象に姫島庄屋古庄家(有形文化財)の歴史について学びながら清掃活動を行い、文化財や郷土を愛する心を育む活動や、小学6年生と保護者を対象に「親子ふれあい福祉入門教室」と題して、医師や福祉に関わる方の講話や、お年寄り疑似体験・介護方法を学ぶ活動等、他にも様々な活動を行っています。

今後も、地域の協力を得ながら青少年の健全育成活動に取り組み、次代を担う青少年の成長を支援してまいります。



4 津久見市 (津久見市青少年健全育成市民会議)

津久見市青少年健全育成市民会議では、「大人の在り方」を見直すことで青少年の健やかな育成を目指すことを基本方針として、市内24か所にて毎月1回、登校時の「朝のあいさつ運動」を学校関係者等と行っています。7月と11月の非行・被害防止強化月間には、市内各団体と協力し、市内のパトロール活動を行いました。

また、「子どもの安全を考える市民講演会」を開催し、大分市にある「自立支援ホームふきのとう」の澤田正一氏から、「受容され愛着の絆を結ぶ居場所をめざして」と題してご講演いただきました。澤田氏の実体験を中心にしたお話は、子どもたちの見守りを行う上で大変参考となりました。今後は、地域を拠点とした様々な体験活動に取り組んでいきます。



5 由布市 (由布市青少年健全育成市民会議)

挾間・庄内・湯布院の3地域市民会議により構成される当市民会議は、地域市民会議ごとの活動を主体とするという全体方針のもと、それぞれに独自の事業を行っています。

今後は、3地域の交流が課題の一つ。今回新たな試みとして、3地域の役員等が一堂に会する交流研修会を行いました。

会では、まず3つの地域がそれぞれに事例を出し合い研究討議。もともと地域にあった連帯感や家庭での教育の大切さが話し合われました。また、後半は、ハイパーネットワーク社会研究所の七條麻衣子氏を講師に、情報社会と子どもたちの関わりをテーマに講話を実施。この分野の関心の高さが感じられました。

3地域の活動は、自治区などによる支部組織での育成活動や、専門部をおいての広報や街頭指導など様々ですが、より一層の「学校・家庭・地域社会の連携」を確認し合いました。



6 九重町 (九重町青少年健全育成協議会連絡会)

九重町青少年健全育成協議会連絡会は、健全な青少年の育成のため、平成25年に統合新設された、このえ緑陽中学校での月1回のあいさつ運動のほか、児童館や保健師と連携し、中学3年生を対象とした「乳幼児ふれあい事業」や、イベントに合わせて啓発活動を実施しています。また、町内4地区ごとに組織された各地区育成協の連絡調整を行っています。

地区育成協では、小学校単位でのあいさつ運動やJrリーダーの育成など、独自の取り組みを積極的に行っています。

東飯田地区では、毎年地区育成協が中心となり実行委員会を立ち上げ、公民館を拠点に「通学合宿」を開催し、今年度で9回目を数えます。実行委員のメンバーには地区の大人が加わり、地域と子どもたちとのつながりを深める取り組みを実施しています。



平成26年度 「大分県青少年健全育成大会」を開催



大会の様子

10月31日、大分県及び大分県青少年育成県民会議が主催して、トキハ会館ローズの間で「大分県青少年健全育成大会」を開催しました。

この大会は、11月の子ども・若者育成支援強調月間に合わせて毎年開催しているもので、県民会議のメンバーなど関係者約250人が参加しました。

大会では、青少年の健全育成に功績のあった方々を表彰しました。保護育成者5名、感謝状1名、及び大分県少年の船35周年記念感謝状贈呈4団体が表彰状を授与された後、受賞者を代表して大分市青少年健全育成連絡協議会佐藤英人さんが謝辞を述べられました。

また、今年度、「家庭の日 ふれあい川柳」の優秀賞受賞者の親子も併せて表彰されました。

その後、少年の主張大分県大会で最優秀賞を受賞した、兒玉珠希さん(臼杵市立北中学校3年)が「何かを探して」と題して意見発表を行いました。

引き続き開催した、講演会では、非行少年・地域での立ち直り支援「信じ続ければ応えてくれる」～地域の教育力の大切さ～というテーマで福岡県北九州市 有限会社野口石油代表取締役で福岡県協力雇用主会会長の野口義弘さんが講演を行いました。



表彰者のみなさん



講演会 野口義弘さん



中学生の意見発表 兒玉珠希さん

大分県青少年育成県民会議会長表彰

■ 保護育成者の部(5名)

佐藤英人(大分市)
 富田一主(九重町)
 後藤敦子(大分市)
 工藤喜賀(大分市)
 廣田寧孝(大分市)

■ 感謝状(1名)

後藤泰範(大分市)

■ 大分県少年の船35周年記念感謝状贈呈 団体(4)

鶴崎海陸運輸株式会社 鶴海運輸株式会社
 大分臨海興業株式会社 大分県警察音楽隊

■ 家庭の日 ふれあい川柳 最優秀賞

小学5年生の部 坂本 真彩、知子 (佐伯市立木立小学校)
 小学6年生の部 久保 伽藍、君代 (大分市立津留小学校)
 中学1年生の部 穴井 晴太、忍 (九重町立このえ緑陽中学校)

※3ページに作品を掲載

敬称略

平成26年度 「大分県少年のつどい」を開催

平成26年2月21日(土)～22日(日)に、冬の自然に親しむ「大分県少年のつどい」を県立社会教育総合センター九重青少年の家で開催しました。

これは、昨年度に引き続き、県民会議体験活動部会で企画し実施したものです。当日は、県内各地から小学4年生～6年生76名が1泊2日の活動プログラムに参加しました。

主な活動プログラム

第1日目

○飯田高原の自然散策

森林環境学習指導者及び九重青少年の家職員の案内で冬の飯田高原の自然散策を行いました。子どもたちはルーペを使って樹木の観察を行ったり、動物の巣穴を見つけたりと寒さを忘れて熱心に取り組みました。

○キャンドル活動

ボーイスカウトの進行により実施しました。営火長のお話や各班の出し物などがあり、全員で火を囲みながら楽しく、そして厳かな夜を過ごしました。

第2日目

○班別対抗レク

子ども会の進行によりダンスやドッチビー、綱引き、リレーなどを行いました。プレイホールは子どもたちの元気いっぱいの声と笑顔につつまれました。



参加した子どもたちの声

- ・自然散策ではたくさんの発見がありました。動物の巣穴を見ることができてよかったです。
- ・初めて会った人たちとすぐに仲良くなれて、自然観察やレクリエーションなどをして楽しかったです。来年も参加したいです。
- ・自分で布団がたためるようになったり、時間に合わせて行動することができるようになりました。苦手な食べ物にもチャレンジしました。できなかったことができるようになりました。

県民会議加盟団体の活動 大分県青年国際交流機構

「大分県青年国際交流機構」は内閣府(旧総理府を含む)の行っている青年国際交流事業のOB・OGで構成し、内閣府の青年国際交流事業への協力や国際交流経験を活かした地域貢献活動を行っている団体です。

このような組織は、47都道府県全てに都道府県団体があり、都道府県内の活動だけでなく、全国大会や九州ブロックなどのブロックごとの集まりを毎年開催し、情報交換を行っています。その中で、平成26年12月13日(土)から14日(日)の2日間にわたり、「平成26年度九州ブロック青少年国際交流を考える集い」を大分県杉の井ホテルで開催し、九州各県を中心に約50名の関係者が集まりました。

基調講演では、障がい者スポーツ先進県である大分県として「2020年に向けて地方で出来ることを考える」と題し、ロンドンパラリンピック代表の板井淳記選手やフェスピック競技大会コーチの堀川裕二コーチの話を聞くなど有意義な時間を過ごしました。

今後も、内閣府の青年国際交流事業は続きますので、世界に興味のある方は是非挑戦してください。



「大分県青少年育成県民会議」への加入のお願い

大分県青少年育成県民会議は、県内市町村民会議をはじめ企業、団体等の110団体で構成されています。現在、社会の急速な変化の中で、青少年の非行や被害だけでなく、ニート、ひきこもり、インターネットによる有害情報の氾濫など、青少年をめぐる多くの問題が山積しています。

このような状況を少しでも改善し、将来の大分県を担う青少年が健やかに成長していけるよう、県民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組んでいかなければなりません。

そこで、この活動の輪をさらに広げるために、各企業や団体の皆様のご加入をお願いいたします。

●加入のしかた 大分県青少年育成県民会議事務局へご連絡いただいた後、「加入申込書」を送付いたしますので、ご記入のうえ提出をお願いいたします。詳しくは「大分県青少年育成県民会議」ホームページをご覧ください。

●会費 正会員 年間3,000円 賛助会員 年間5,000円

●事務局 大分県生活環境部私学振興・青少年課内 TEL: 097-506-3076 FAX: 097-506-1745

●賛助会員新規ご加入 大分県カラオケBOX協会様 株式会社NTTドコモ大分支部様 学校法人田北学院様

●ご寄付 後藤泰範様 33名様 豊の国協同組合様(青少年の健全育成のため)

お知らせ

携帯・ネット利用に関する保護者向け啓発講座 (インターネット出前講座)

大分県青少年育成県民会議では、携帯電話やインターネット利用によるトラブルから青少年を守るため、KDDI株式会社九州総支社、株式会社ドコモCS九州両社の協力により実施しています。PTAや公民館等の研修でぜひご活用ください。26年度は21講座、約2,900人が受講(27年2月現在)しました。

内 容

携帯電話(スマートフォン)・ネット利用に係るトラブル事例とその解決方法等について、学校やPTAが行う保護者向け研修や市町村PTA連合会、青少年育成関係者等が対象の研修に講師(携帯電話事業者)を派遣

主なトラブル事例

- ・ネットいじめ
- ・プライベートな画像の流出
- ・長時間利用
- ・高額請求

申し込みから実施の流れ

- ①日程及び会場を事前に確保したうえで、県民会議事務局(私学振興・青少年課)に電話で予約(県民会議事務局が対応できる講師を調整)
- ②県民会議事務局に申請書を提出
- ③担当する講師(事業者)と直接連絡調整し、講座を実施
- ④講座が終了した後、報告書を県民会議事務局に提出



問い合わせ・申し込み先

詳しくは大分県青少年育成県民会議事務局 TEL 097-506-3076 FAX 097-506-1745
にお問い合わせください。

申込書は「大分県青少年育成県民会議」のホームページからダウンロード可能です。